

## 大名からの進物

天神として神格化された菅原道真は、庶民から貴族まで幅広い支持を集めました。貴族階級は彼を高く評価しました。太宰府天満宮の宝物殿はその奉納品を展示しています。高官が天神に奉納するのは一般的でした。これらの奉納品の中には感謝の気持ちとして提供されたものもあれば、戦災などでの幸運を願うものもありました。

地方で最大の領地の武将である日本の大名の多くは、戦場での勝利を祈願するために太宰府天満宮を訪れました。これらの諸侯・諸氏は、明治政府による中央集権体制に戻る前の 10 世紀から 19 世紀半ばにかけて広大な土地を支配していました。

太宰府天満宮の宝物蔵に展示されている進物には、16 世紀の有力な大名一族である織田一族の鎧が含まれています。兜の角は水牛を象徴しています。福岡藩の初代藩主、黒田長政(1568~1623 年)は、藩独自の藤紋の入った刀を寄進しました。寄進された宝物のすべてが戦争に関するものではありません。例えば、14 世紀から 16 世紀まで最西の本州と北九州の一部を（時々）治めていた大内大名一族はここで見られるように漆器を捧げました。